

新 PCC マーカー

2021年2月11日分

PCC マーカーの翻訳

元の原文は英語であり、英語でしか表現できない言葉もあります。日本語訳はあくまで参考として、原文の意味を理解するためのサポートとしてご利用ください。

PCC のアセスメント・マーカーとは、トレーニングを受けたアセッサーが録音されたコーチングの対話の中で、どの ICF コア・コンピテンシーに該当しているのかを判断するために使用する指標のことです。

以下のマーカーは、コーチングの対話の中にてプロフェッショナル認定コーチ(PCC)レベルのコア・コンピテンシーを実践していることを示す行動です。

これらのマーカーは、公正で、一貫性、有効性、信頼性、再現性があり、正当であることにより、実技試験の評価プロセスを支えるものです。

PCC マーカーはまた、コーチ、コーチトレーナー、メンターコーチが PCC レベルのコーチングに求められる成長とスキル開発の領域を特定することを支援します。

ただし、それは、常にコア・コンピテンシーに沿った能力開発の中で使用されるべきものです。

PCC マーカーを PCC の実技評価に合格するための定型のチェックリストとして使用すべきではありません。

コンピテンシー1:倫理に基づいたコーチングを実践している

コーチングのすべてのレベルにおいて、ICF の倫理規定とその運用に精通していることが求められます。PCC に合格するものは、倫理規定に沿ったコーチングを実践し、コーチとしての役割に一貫性を保ち続けます。

コンピテンシー2:コーチングマインドを体現している

コーチングマインド(オープンで好奇心旺盛、柔軟性があり、クライアントを中心に据えたマインド)を体現するということは、継続的な学習と開発、内省的な実践の確立、セッションに向けた準備を必要とするプロセスです。

これらコーチングマインドの要素は、コーチのプロフェッショナルとしての旅路において立ち現れるものであり、時をかけずに瞬時にすべてを獲得できるものではありません。

とは言え、このコンピテンシーのいくつかの要素がコーチングの対話の中で表れることがあります。

これらの特定の行動は、以下の PCC マーカーによって明確に表現されており、それを基に評価されます。

PCC マーカー:4. 1、4. 3、4. 4、5. 1、5. 2、5. 3、6. 1、6. 5、7. 1、7. 5

他のコンピテンシーの領域と同様に、PCC の実技評価に合格するためには、これらのマーカーが規定値以上示されている必要があります。

コンピテンシーのすべての要素が、ICF 資格取得のための筆記試験(CKA)でも評価の対象となります。

コンピテンシー3:合意の確立と維持

3. 1: コーチはクライアントのパートナーとして共に、クライアントがこのセッションで何を達成したいかについて確認したり、再確認したりしている。
3. 2: コーチはクライアントのパートナーとして共に、クライアントがこのセッションで達成したい成功の尺度を定義したり、再確認したりしている。
3. 3: コーチは、このセッションで達成したいことについて、クライアントにとって何が重要で意味があるのかについて問いかけたり探索したりしている。
3. 4: コーチはクライアントのパートナーとして、クライアントがそのセッションの中で達成したいことに向けて、何に取り組まねばならないと考えているのかを特定できるようにしている。

コンピテンシー4:信頼と安全を育む

4. 1: コーチは、コーチングプロセスの中で、クライアントの独自の才能、洞察力、取り組みを認め、尊重している。
4. 2: コーチは、クライアントへのサポート、共感、関心を示している。
4. 3: コーチは、クライアントが感情、物の捉え方、関心、信念、懸念を表現することを承認し、支援している。
4. 4: コーチは、クライアントのパートナーとして、コーチの働きかけに何らかの形で反応するようクライアントをいざない、クライアントの反応を受け取っている。

コンピテンシー5: 今ここに在り続ける

- 5. 1: コーチは、クライアントのその人全体(何者か)に対応している。
- 5. 2: コーチは、そのセッションの中でクライアントが達成したいこと(何を)に一貫して対応している。
- 5. 3: コーチは、クライアントのパートナーとして、セッションの中で起こることについて、クライアントが選択できるように支援している。
- 5. 4: コーチはクライアントのことをより知りたいという好奇心を示している。
- 5. 5: コーチはクライアントの沈黙、間、内省を受け入れている。

コンピテンシー6: 積極的傾聴

- 6. 1: コーチの質問や観察は、コーチが、クライアントがどんな人で、どんな状況に置かれているかを理解したうえでカスタマイズされている。
- 6. 2: コーチは、クライアントが使う言葉について問いかけたり探索したりしている。
- 6. 3: コーチは、クライアントの感情について問いかけたり探索したりしている。
- 6. 4: コーチは、クライアントのエネルギーの変化、非言語的な合図、または、その他の行動を探索している。
- 6. 5: コーチは、クライアントが自分自身や自分の世界を現在どう捉えているかについて、問いかけたり探索したりしている。
- 6. 6: コーチは、明確な目的がない限り、クライアントの話を遮らず、最後まで話させている。

コンピテンシー7:気づきを引き起こす

7. 1: コーチは、クライアントの現在の考え方、感情、価値観、ニーズ、欲求、信念、行動について質問をしている。
7. 2: コーチは、クライアントが自分自身(何者か)について現在持っている思考や感情を超えて、それらをより新しいあるいはより広い捉え方で探索することに役立つ質問をしている。
7. 3: コーチは、クライアントが自分の状況(何を)について、現在持っている思考や感情を超えて、それらをより新しいあるいはより広い捉え方で探索することに役立つ質問をしている。
7. 4: コーチは、クライアントが望む結果に向けて、現在の思考、感情、行動を超えて探索していくことに役立つ質問をしている。
7. 5: コーチは、クライアントに観察、直観、所感、見解または感情を(それに執着することなく)共有し、言葉または声のトーンによって、クライアントが(の)探索を促している。
7. 6: コーチは、クライアントが考えたり、感じたり、振り返ったりしやすいペースで、1問ずつ、明快に、単刀直入に、主にオープンクエスチョンで質問をしている。
7. 7: コーチは、概して明確で簡潔な言葉を使っている。
7. 8: コーチは、対話の大部分をクライアントが話せるようにしている。

コンピテンシー8:クライアントの成長を促進する

8. 1: コーチは、クライアントがそのセッションの中で達成したかったことに向けて、前に進む探求を促したり、許容したりしている。
8. 2: コーチは、クライアントが自分は何者なのかについての学びをセッションで話す、または探索することを促している。
8. 3: コーチは、そのセッションでクライアントが置かれている状況(何を)について、自身の学びを述べる、または探索することを促している。
8. 4: コーチは、クライアントがこのコーチングセッションからの新しい学びをどう活用するか考えるように促している。
8. 5: コーチはクライアントのパートナーとして、セッション後の思考、振り返り、行動をデザインしている。
8. 6: コーチはクライアントのパートナーとして共に、使える情報、支援、障壁の可能性なども含めて、どのように前進するかを考えている。
8. 7: コーチはクライアントのパートナーとして共に、双方にとって最適なコミットメントの形を作り出している。
8. 8: コーチはクライアントの進歩と学びを祝福している。
8. 9: コーチはクライアントのパートナーとして、どのようにこのセッションを終わらせたいかについて協働している。